

# 京都大学言語学研究

## 第 42 号

### 研究論文

#### 身体分割と伏字

—単一発話における複数の主体について—..... 松田 俊介 1

#### 日本語数量詞遊離現象についての考察

—意味役割を中心に—..... 王 丹 25

#### Honorific register in Mabzhi Tibetan:

How Amdo Tibetans use honorific words in their speech community

..... Tsering Samdrup, Hiroyuki SUZUKI 59

#### 時間的遠近の強調的表示について

—朝鮮語の時間語彙を中心に—..... 川畑 祐貴 77

2023

京都大学

大学院文学研究科

言語学研究室

Vol. XLII  
2023

KYOTO  
UNIVERSITY  
LINGUISTIC  
RESEARCH

*published by*

DEPARTMENT of LINGUISTICS, GRADUATE SCHOOL of LETTERS

KYOTO UNIVERSITY

## Kyoto University Linguistic Research Vol. 42

---

31.12.2023

**Editor-in-chief** Mjesd'alpa GÜR GD'YEM

**Assistant Editors** Minji HAN  
Kunming TAN

**Editorial Board** Adam CATT  
Masami ŌTAKE  
Takeshi YAMAMOTO

Takamasa IWASAKI

Dan WANG

Norihiko HAYASHI

Toshiyuki SADANOBU

Yuki KAWABATA

Chenjie YE

Shuichiro NAKAO

Syuntarō TIDA

**Publisher** Department of Linguistics  
Graduate School of Letters, Kyoto University  
Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto  
606-8501 Japan  
TEL: +81-75-753-2827

**Printer** <https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/>  
Nakanishi Printing Co. Ltd.  
146 Nishioji-cho, Shimodachiuridori  
Ogawahigashiiru, Kamigyo-ku, Kyoto  
602-8048 Japan

# 『京都大学言語学研究』第42号

## 目次

### 研究論文

身体分割と伏字 —単一発話における複数の主体について—	松田 俊介	..... 1
日本語数量詞遊離現象についての考察 —意味役割を中心に—	王 丹	..... 25
Honorific register in Mabzhi Tibetan: How Amdo Tibetans use honorific words in their speech community Tsering Samdrup, Hiroyuki SUZUKI		..... 59
時間的遠近の強調的表示について —朝鮮語の時間語彙を中心に—	川畑 祐貴	..... 77
京都大学言語学懇話会 2023 年度発表要旨		..... 102
『京都大学言語学研究』第43号原稿募集		..... 109
執筆者紹介・編集後記		..... 111

# 『京都大学言語学研究』第 43 号原稿募集

## 投稿規定

- 掲載論文は京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI) にて公開される。
- 同一著者 (共著を含む) は下記 A, B の種別からそれぞれ 1 件ずつ、合わせて 2 件まで同一号に投稿できる。
- 原稿は随時受け付けるが、編集の都合により掲載が次号に持ち越される場合がある。なお、年度内の出版に間に合う投稿時期の目安は、例年 9 月ごろまでである。
- 採否は編集委員会で決定し、2 か月以内に通知する。
- 執筆者には掲載号と論文の電子ファイルを進呈する。抜き刷りを希望する場合は自己負担となる。

## 投稿方法

- 投稿は電子メールにて受け取る。
- フォントの埋め込み処理をした PDF 形式のファイルを電子メールで提出。
- 下記の原稿データを原稿 (既定の様式に沿ったもの) とは別のファイルに記載し、電子メールに添付して提出：
  1. 題目 2. 英語題目 3. 執筆者名、ふりがな 4. 原稿種別 5. ページ数 (要旨は含めない)
  6. キーワード 7. 所属機関 8. 連絡先 (郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス)

## 執筆要綱

- 使用言語 基本的に日本語か英語で執筆することが望ましい。それ以外の言語に関しては、編集委員会に相談すること。母語以外の言語を使用する場合は、しかなるべきネイティブスピーカーにあらかじめ見てもらい、執筆者は本文の可読性について責任をもつこと。
- 種別 

A	研究論文	— 完成した研究論文
	研究ノート	— 研究の初期段階をまとめたもの
	書評論文	— 他者の出版物に対し独自の考察・見解を述べた論文
	言語資料	— 談話資料、語彙集など言語資料をまとめたもの
B	書評	— 他者の出版物を紹介・批評したもの
- 原稿の様式
  - サイズ A4 版用紙
  - 枚数 論文 30 枚、研究ノート・書評論文 20 枚、書評 10 枚、言語資料 30 枚を目安とする。これを超える場合は編集長と相談すること。
  - 書式 『京都大学言語学研究』のホームページ (<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/>) 上に掲載されたスタイルファイル、或いは Word テンプレートを使用することが望ましい。書式については上記ファイルを参照のこと。
  - 図表 モノクロのみとする。
  - 要旨 論文タイトルの下に論文の執筆言語と同じ言語で書かれた要旨・キーワードを載せる。要旨の字数制限は日本語 400 字以内、英語 20 行以内とし、キーワードは 5 つまでとする。また、本文の後ろに執筆言語が日本語の場合は英語、その他の言語の場合は日本語で書かれた、A4 版用紙 1 頁以

内の要旨・キーワードを書く。書評については要旨・キーワードは不要とする。

■ 氏名 投稿時は氏名を記入しないが、校正の際、担当者から記入の指示がある。

■ 書評タイトル指針

第 1 著者名・他の著者名『書名』版、出版地：出版社、発行年、ローマ数字頁数＋頁数

西田龍雄（著）『西夏文華嚴經 I』京都：京都大學文學部、1975、xii + 179 pp.

Yoshida, Kazuhiko: *The Hittite Mediopassive Endings in -ri* (Studies in Indo-European Language and Culture, New Series, Vol. 5). Berlin and New York: Walter de Gruyter, 1990, xi + 216 pp.

■ 参考文献指針

和文、欧文、その他言語の文献に分けてアルファベット順に並べる。

氏名を 2 通り以上併記する場合は、最初に記された氏名で並べる。

【雑誌論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」『雑誌名』巻数：頁数.

【論集などに所収の論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」編集者（編）『論文集名』頁数. 出版地：出版社.

【単行本】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）『書名』（必要な場合は）版、（該当する場合は）シリーズのタイトルと巻号. 出版地：出版社.

【学位論文】

著者名（提出年）「論文名」学位論文の種類、大学名.

定延利之 (1998) 「言語表現に現れるスキヤニングの研究」博士論文, 京都大学.

曾布川寛・吉田豊編 (2011) 『ソグド人の美術と言語』京都：臨川書店.

田窪行則 (2005) 「中国語の否定：否定のスコープと焦点」『中国語学』252：61–71.

田窪行則・前川喜久雄・窪菌晴夫・本多清志・白井克彦・中川聖一 (1998) 『音声』, 岩波講座 言語の科学 2. 東京：岩波書店.

Catt, Adam (2014) The Derivational Histories of Avestan *aēsma-* ‘firewood’ and Vedic *idhmá-* ‘id.’ In Stephanie Jamison, H. Craig Melchert, and Brent Vine (eds.), *Proceedings of the 25th Annual UCLA Indo-European Conference*. Bremen: Hempen. 39–48.

Tida, Syuntarô (2006) A Grammar of the Dom Language. Doctoral dissertation, Kyoto University.

## 編集委員会連絡先

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

電話・FAX：(075)753-2827 電子メール：kulr.editor@gmail.com

※ご不明な点はお問い合わせください。

## 執筆者紹介

松田 俊介	東京大学大学院
王 丹	京都大学大学院
Tsering Samdrup	リーズ大学
Hiroyuki SUZUKI	京都大学
川畑 祐貴	京都大学大学院

## 編集後記

Recovering from the worldwide COVID-19 pandemic, suffering from the unstoppable worldwide inflation, facing the more and more complicated international situation, hearing about the tragedies from the wars one after another, everyone in the world could have a hard time to keep calm and carry on in the year of 2023. Therefore, I really like to send my best regards to all the contributors, presenters and every person who overcame the difficulties and helped us to complete the *KYOTO UNIVERSITY LINGUISTIC RESEARCH* Vol.42, and I sincerely hope all of you would keep a warm eye on and supporting *KYOTO UNIVERSITY LINGUISTIC RESEARCH* in the future.

This research journal would also be published on the website Kyoto University Research Information Repository (KURENAI) as an e-journal. Please access through the URL below.

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bulletin/kulr>

今後とも『京都大学言語学研究』をよろしく願いたします。

Editor-in-chief

## 『京都大学言語学研究』 第42号

---

2023年12月31日発行

**編集委員長** グル・クチェン・ゼステルバ

**編集委員長補佐** 岩崎 崇雅

譚 坤明

**編集委員**

大竹 昌巳

千田 俊太郎

山本 武史

王 丹

韓 旼池

キャット・アダム

仲尾 周一郎

川畑 祐貴

葉 晨傑

定延 利之

林 範彦

(五十音順)

**発行者**

京都大学大学院文学研究科言語学研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

電話：(075)753-2827

<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/>

**印刷**

中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル西大路町 146

# *Kyoto University Linguistic Research*

Vol. 42

## Articles

MATSUDA Shunsuke:

Body Partitioning and Fuseji:

Multiple Subjects in a Single Utterance . . . . . 1

WANG Dan:

A Study of Floating Numeral Quantifier in Japanese:

A Perspective from Semantic Macroroles. . . . . 25

Tsering Samdrup, SUZUKI Hiroyuki:

Honorific register in Mabzhi Tibetan:

How Amdo Tibetans use honorific words in their speech community . . . . . 59

KAWABATA Yuki:

On the temporal remoteness and its emphasis:

A study of temporal words in Korean. . . . . 77



2023

Department of Linguistics  
Graduate School of Letters  
Kyoto University